

シルバ先生 (Dr. Paul Claude Silva) を偲んで



1957 (昭和 32) 年からの日本藻類学会員で、カリフォルニア大学バークレー校 (University of California, Berkeley; 以下, UCB) 名誉植物研究員 (Research Botanist, Emeritus)・藻類標本室キュレーター (Curator of Algae) のシルバ先生 Dr. Paul Claude Silva が、2014 年 6 月 12 日未明に亡くなりました。91 歳でした。

シルバ先生は、長年藻類の植物地理学や分類学に関して地球規模の研究を続けられ、そのため世界中の藻類分類学者と交流をもたれました。日本の藻学界にも関係が深く、とりわけ藻類学名の命名法に関して多くの研究者に頼られていました。また、筆者らのようにシルバ先生の研究室や自宅で長期間お世話になった日本人研究者は数知れず、米国ではもともと日本通の藻類学者でした。シルバ先生の生涯と業績については、同僚であった Kathy A. Miller 博士が *Botanica Marina* 誌 (2014, 57: 241–242) に詳しく書かれていますので、本稿では Miller 博士のご厚意を得て、随所引用させていただきながら、シルバ先生の日本への貢献と関わりを中心に述べたいと思います。

1922 年 10 月 31 日、シルバ先生は米国サンディエゴにお生まれになりました。南カリフォルニア大学 (University of Southern California) に入学して植物学を学びはじめたものの、1941 年の日米開戦により中断され、海軍士官予備学校を経て海軍護衛駆逐艦ダービー (USS Darby) に乗艦、レイテ沖海戦へ出征されました。なお、レイテに向かう途中、ダービーが数日間ハワイに待機した際には、ハワイ大学の植物学科を訪れて、まだ学生だった Isabella A. Abbott 博士 (のちに UCB の同じ研究室で海藻を専攻) に初めて会われたといわれています。戦後、大学に戻られ、1946 年に優秀な成績 (summa cum laude) で卒業され、スタンフォード大学 (Stanford University) の大学院に入学してからは G. M. Smith 博士の指導でカリフォルニア沿岸の海藻相を修論のテーマとして研究されました。その過程でミル属 *Codium* に興味をもたれ、1948 年からは UCB の G. F. Papenfuss 博士の研究室で南アフリカのミル属の形態分類に着手、学位を取得され、以

来 60 余年、世界のミル属を研究し続けられました。1952 年、イリノイ大学 (University of Illinois) の教授に着任。1960 年に UCB に戻られてからは “Research Botanist” として 44 年間標本室 (UC Herbarium) に勤務され、2004 年の退職後も UCB に通われて、集大成 “Index Nominum Algarum” (藻類学名検索。約 20 万件の藻類分類群名を網羅したカードファイル) とその文献データベース “Bibliographia Phycologica Universalis” (全世界藻類学文献目録) の完成につとめられました。いずれも UCB の HP から利用することができます (<http://ucjeps.berkeley.edu/INA.html>)。そのような多忙な日々にも、世界各国の藻類研究者から届く命名法に関する質問メールに答えておられました。

シルバ先生の著作は 100 篇を超え、そのなかには 1200 頁を超える大著 “Catalogue of the Benthic Marine Algae of the Indian Ocean” (インド洋産海藻目録) も含まれています。シルバ先生が命名した藻類は 800 分類群を超え、“*Silvetia*” (エゾイシゲ属) などの属名のほか、先生に献名された種名は 20 種に及びます。また、最初に書かれた論文 (1950 年) が藻類属の保存名についてのものであったことから窺えるように藻類命名法の分野で右に出る者はなく、国際植物分類学協会の藻類委員会では 1954 年から議長や幹事を歴任され、1981 年から 2004 年までは国際植物命名規約の編集委員をつとめておられました。さらに、1961 年の国際藻類学会の創設に関わり、自らが創刊に尽力された *Phycologia* 誌の初代編集長となりました。1965 年に会長に就任され、1985 年には同学会で最初の名誉会員に選ばれています。

音楽をこよなく愛し、筆者らにはシルバ先生にオーケストラの演奏会やオペラ (San Francisco Opera)、バレエ (San Francisco Ballet) の鑑賞に誘われた思い出があります。とりわけピアノの腕前は、大学時代までプロのピアニストの道を考えておられたほどで、Papenfuss 教授のアドバイスで藻類研究者の道を選んだという逸話が残っています。

無類の旅行好きで、最近まで世界中を旅され、日本にも数回訪れています。1986 年には日本学術会議の招聘で 2 ヶ月



1. 半世紀にわたって通われたカリフォルニア大学バークレー校の標本室 (UC) がある建物 (Valley Life Sciences Building) の前に立つシルバ先生 (2004年6月, 左は Michael J. Wynne 博士), 2. 標本室 (2004年5月), 3. 研究室 (1999年4月), 4. 自宅でピアノを演奏するシルバ先生 (1999年4月), 5. 2009年に東京で開催された国際藻類学会議 “IPC9” に出席されたシルバ先生 (2009年8月), ニュージーランド産ミル属について, 弟子の Max E. Chacana 博士と共同発表されたポスターの前で (右は熊野).

間滞在されました。そのときの目的のひとつが「日本の藻学者との研究交流」で、北海道から鹿児島まで15機関を訪問されています。当時学生であった大葉（神大の博士課程3年）と北山（北大の学部4年）もお会いすることができ、それがきっかけでちに先生の研究室を訪れることになりました。帰国後、シルバ先生は本誌第34巻第3号（1986年）に“Phycology in Japan: past, present, and future”（日本における藻学—過去・現在・未来—）という文を發表され、標本の保存や藻学の研究手法などについて考察なさいました。日本の藻学界をよく知るシルバ先生ならではの提言で、今日の実況を予見したものでした。また、2009年8月に東京で開催された国際藻類学会議 “IPC 2009” のために来日されたときには86歳でしたが、ポスター発表のみならず、エクスカーション（鎌倉ツアー）にも参加され、久々の日本を楽しまれておられました。

筆者のひとり、熊野が1999年にUCBに滞在した目的は、Kumano (2002) 著 “Freshwater Red Algae of the World” の原稿校閲をシルバ先生にお願いすることでした。研究室とご自宅で、シルバ先生は本文の校閲ばかりでなく、引用文献の一つ一つをUCB所蔵の論文で確認してくださいました。同書の引用文献に孫引きが一つもないのは先生のおかげです。出版の年、先生は傘寿でした。そこで、感謝の気持ちを表すため、扉頁に “Dedicated to Paul Silva in celebration of his 80th birthday” と印刷して同書を献呈しました。

大葉は、シルバ先生に投稿論文原稿を何度か高閲していただいたご縁から、1997年10月からの8ヶ月間、先生の研究室で文科省在外研究をさせていただきました。シルバ先生

は、とても気さくで気配豊かな心暖かい人柄で、バークレーでの生活や健康などを気遣ってください、研究の合間にはよく野外に連れ出していただきました。また、滞在中いろいろな質問をしましても、いつも快く説明してください、まるで “Walking dictionary” のごとく、その知見の深さ・広さに感嘆させられました。滞在後ヨーロッパの大学や博物館を巡る計画を話したときには、「私も若い頃、同じようなタイプ標本精査の旅をしたことがとても懐かしい」と仰ったことを昨日のこのように覚えております。

2004年4月から6ヶ月間の在外研究で滞在した北山も、シルバ先生の庇護を受けて楽しい日々を過ごさせていただきました。当時準備中だった国立科学博物館（上野）の新しい常設展示のことも相談にのってください、生物分類展示「系統広場」の英名表記 “Tree of Life” もシルバ先生が命名されたものです。帰国後も、誕生日が同じというご縁で毎年ハロウィンが近づくと温かいメールをいただき、Abbott博士が2010年10月28日に91歳で逝去されたときには、先生が彼女に最初に会ったときのことを教えてくださいました。花と風景と子供が大好きで、“Beautiful!” が口癖でした。シルバ先生とふたりで1週間かけてドライブした美しい北カリフォルニアの旅はいまも脳裏に鮮烈に残る思い出です。先生は生涯独身でしたが、ユーレカにすむ令妹に曾孫があり、この旅で会うことができるととても喜んでおられたのが印象的でした。

天に召されたシルバ先生が安らかに憩われますことをお祈りいたします。

北山太樹・大葉英雄・熊野 茂（日本藻類学会会員）